

豊浦町大岸地区 SOSネットワーク 徘徊模擬訓練開催

11月5日、豊浦町地域支え合い体制づくり事業の一つである徘徊模擬訓練が大岸地区で行われ、当法人も計画から実施、参加と全面協力致しました。

まずは講座としてグループホームぬく社の郷・しおさい若松施設長より、認知症の方への声の掛け方について寸劇を交えて説明していただき、良い声かけと悪い声かけについて理解を深めました。実際に数名の参加者の方にも声かけの仕方について体験していただきましたが、とても初めてとは思えない程の適切な声かけに、会場からも拍手が沸き起こっております。

休憩を挟んでから伊達警察署生活安全課係長の青木様より、警察署への届出の流れについて寸劇に解説を加えながら、いざという時に慌てず落ち着いて届出をしなければならないことについての理解を深めました。

その後在宅での不明者と施設入居者が行方不明になったという想定で2つのエリアに分け、1グループ5～6人の編成で捜索訓練を行いました。それぞれのグループが地元住民への聞き込みを行いながら、主要道路を中心に移動して、時には建物の裏、藪の中、橋の下等の様々な場所を確認しておりました。なかなか見つからず参加者の皆様にも焦りが見え始めた頃、大岸自治会の参加者から「まだ行っていない場所がある」との提案があり、グループのメンバー誰もが「そっちは行かないだろう・・・」と心に思いながらも、そちらに向かってみると、なんと行方不明者役を発見。「さすが地元ですね」と周囲から感心される場面もありました。

どちらのグループも実際の捜索における動き方や探す場所のポイントについて体験できた訓練になった様子で、参加者からの感想としては、「地域住民の方が一緒にいたので、捜索がスムーズに行うことが出来た」「写真があればもっと探し易かった」等の話が出されておりました。

今回は約70名の参加者で訓練が行われましたが、うち30名弱が大岸自治会という関心が高いということが伺われ、今回の訓練でも大活躍されておられました。

今後も気づきを活かし訓練を重ねることで緊急時における迅速な対応が出来るように皆様方と一緒に頑張っていきたいと思っております。

関係機関の皆様、地域住民の皆様、ご協力ありがとうございました。

